

攻防、深夜にもつれ込む

宇治市 開浄水場の休止問題

水道部は原水である地下水の水質、施設の老朽化などを踏まえて休止方針を決め昨年3月以来、地元と8回にわたって話し合いを行った。しかし、両者の主張は平行線を辿り、昨年末には水道部が「話

宇治市の開浄水場休止に伴う府営水への切り替え問題で市長サイドは21日、開地区自治連合会などの撤回申し入れに対して「予定通り本日深夜から翌朝にかけて実行する。実力行使は撤回できない」と回答した。地元では7カ所の切り替えポイントに人員を配置して見回り活動を展開したほか、午後8時半からは開地域福祉センターで約70人を集めて住民決起集会を開催。市側は日付が変わる午前0時に水道部職員ら約20人を現場に送り込み、にらみ合いが始まった。抗議を受け、この断念劇再現か、それとも強行劇となるのか、攻防は深夜にもつれ込んだ。

市長「実力行使は撤回できない」
サイド「断念劇再現か、それとも強行か」
決起集会 裁判無視「不当極まりない」

し合い打ち切り』を通告。16日には住民313人が休止差し止めと同様



発行所 ©
城南新報
〒611-0021 宇治市宇治里尻
TEL (0774)24-1221
FAX (0774)22-5754
E-mail jshinpou@ybb.ne.jp

趣旨の仮処分を求めて京都地裁に提訴したが、水道部は21日午後11時から準備作業、翌0時から5時にかけて切り替え作業を行う」と通知した。

この日、地元では午前8時半から府営水切り替えバルブの前で住民が交代で立ち番に当たった。住民らがパトロールするなか、昼過ぎには撤回を求めた自治連合会などの申し入れ(8日付)を市長サイドが拒否。住民ら原告団の山口智弁護士も桑田静児水道事業管理者に中止を申し入れたが、受け入れられず緊張感が増すなかで夜のとりが下りた。

8時半からは開地域福祉センターで立ち番をしている人を除く約70人が住民決起集会を開き、住民の一致団結を図った。俊正会長は「裁判で正当性を争うことになっっている。一方的に止める市のやり方は不当極まりない。法治国家の常識であり、隙を狙って止める行為は極めて異常で、道理に反する。実力で止めざるを得ないことは残念で、大きな怒りを持っている」と述べ、地下水を守り抜く決意を改めて表明。住民らは切り替え作業が完了する朝5時までの徹夜態勢を敷き、一灯缶で暖を取しながら「その時に備える中、午前0時前、水道部職員らが姿を見せた。前回、水道部は今回

同様のタイムスケジュールを組んだが、準備作業開始3時間前には開浄水場に到着。翌1時40分に本隊が到着したが、住民らの抗議で2時すぎに作業を断念した経緯がある。

住民は抗議によって市職員を追い返すべく体を張る。水道部も場合によっては公務執行妨害で警察の助けを求め、完全執行を目指すとともに、一旦引き下がって同日中に再度執行する計画も視野に入れるなど並々ならぬ決意を示しており、衝突は避けられない情勢のまま深夜のせめぎ合いに突入した。